

## 旅立ちの日に想う 各々の思い

—研究室への置き手紙—

Graduating with hopes and memories

—Message for the lab. members—

text\_abe

東北地方太平洋沖地震の影響で平成 22 年度学位記授与式は縮小開催、専攻学位記授与式は開催中止となりましたが、都市デザイン研究室では博士課程 1 名 (江口)、修士課程 9 名 (阿部、大熊、神原、熊谷、黒川、櫻庭、鈴木、永野、山下)、空間計画研究室では修士課程 5 名 (阿南、小島、福角、竹田、丸上) の計 15 名が研究室を巣立ちました。同時に、今年度をもって阿部先生がご栄転されることから、総勢 16 名が研究室から旅立つこととなりました。新たなステージへ旅立たれる皆様から研究室への置き手紙を頂きました。

### 卒業生からの置き手紙 (修士編)

Messages from Master course students



▲学位記を手に修士一同



黒川 佑人  
Yuto Kurokawa

2 年間で振り返ってみると「広い世界を見る」という言葉に集約することができるような気がします。これまでは色のなかった都市の様々な部分を鮮やかに見ることができました。本当に濃密な時間を過ごし、その時々的情景や言葉が目に見えかけます。先生方、先輩、後輩など多くの方々に支えられて自分自身を成長させることができました。本当にありがとうございました。今後は、まだ眼前に広がる都市に自身で色をつけることができるように精進し、胸を張って「都市デザイン研究室の OB です」と言えるようになることを目指します。



阿部 正隆  
Masataka Abe

この 2 年間はきっと人生の中でも最も濃密な時間だったと生涯思うことになるんだろうなという気がする。多くの人に出会い、多くの知識を吸収し、多くの技術を身につけた。自分のやりたいことに打ち込み、自分自身からは取り組むことはなかったであろうことにたくさん挑戦出来た。まだまだやり残したことはある気もするけれど、先生、先輩、後輩多くの方に支えられて充実した修士生活であったと思う。都市デザイン研究室に辿り着いた不思議な縁に感謝。



櫻庭 敬子  
Keiko Sakuraba

今、日本では震災で、原発で多くの "市民" が犠牲になっている。一方で、リビアでは仏英米の空爆によって "市民" が犠牲になっていて、日本はそれを支持している。ちょっと理解ができないんだ。ところで、「ライフワーク」、「生きがい」っていうと、軽く聞こえてしまうけれど、「人生の仕事」、「生きる甲斐」なんだって思うと、私たちは生きてはたらく必要がある。この 2 年間、ちょっとはその種をみつけることができたのかもしれない。



大熊 瑞樹  
Mizuki Okuma

研究室で日々挑戦したことを思い返せば、最後の最後まで初めてやってみたことばかりでした。絵も下手でプリントの整理も出来ないくらいデザインとは程遠い自分でしたが、必要ならやったことないけどやってみるか、という日々の中で、積極的に都市デザインに関わる勇気を持つこと、そしてその意義を改めて知ることができました。自分が活躍できる場所があり、そして自分の活躍が期待されている場所がある、そんな都市デザイン研究室に感謝しています。



鈴木 亮平  
Ryohei Suzuki

この 2 年間で自分のやりたいこと、自分がやるべきこと、というのが少し見えてきた気がします。それを思うと、とても充実した 2 年だったと思います。自由気ままな自分にかまってくれた、研究室の皆さんには感謝しています。とても居心地の良い研究室でした。ありがとうございました！さよなら、本郷キャンパス。って、まだあと 3 年いるんですけどね！（駒場にいますよ）



神原 康介  
Kousuke Kanbara

自分の学びたいことにじっくりとマイペースに向き合えた 2 年間。先生方、研究室の仲間、まちの方々、多くの人と議論し、指導・助言・励ましを頂きました。特に、同期のメンバーとの議論や論文の情報提供、日々の何気ない相談に支えられたところは大きかったと思います。本当にありがとうございました。



永野 真義  
Masayoshi Nagano

別の PJ 選べばよかった。腐って海に行って、拡大模型作れば問題なかったのに。大事な質疑応答で「たまたま」を言っちゃったこと。あの会社をなぜ受けなかったのか。報告会は原稿を持って臨むべきで中途半端な PJ やコンペも。現場に入り込まず、CAD は最後までダメ。他人に頼りまくって駆け終えた。後悔はキリがなく、でも後には案外悪くないことが待ってて、色んな人がカバーしてくれてたと卒業する春にやっと気付いたなんて、今更でしたね。



熊谷 俊一  
Shunichi Kumagai

地震のごたごたで 10 日ぶりくらいに研究室に来た。9 階も 10 階も掃除がひと段落終わり、入口から窓越しにマンションが見えるほど健やかな環境に再生されている。爽やかな研究室空間、先生方の移り変わり、騒々しいお笑い芸人かのかの如き M2 の卒業…。震災後の日本国と同じく、都市デザイン研究室もひとつの時代の転換期にあるように感じましたし、その大いなる曲がり角の傍に入れた時間は幸せでした。また忘年会でお会いしましょう！！



山下 航司  
Koji Yamashita

修士の 2 年間はプロジェクトや論文、そしてその他の活動など盛り沢山の内容に日々悪戦苦闘し、またたくさんの人に支えられながら、気がつけばあっという間に過ぎていきました。この濃密な 2 年間に学んだ事を無駄にすることなく、人生の糧として来るべき社会人生活も邁進していきたいと思っています。ありがとうございました！

## 卒業生からの置き手紙 (博士編)

Message from Doctor course student



江口久美  
Kumi Eguchi

私は修士から6年間、西村・北沢・窪田研究室にお世話になりました。プロジェクトにおいて、住民の思いや考え、対峙していくべき問題と四つに取り組むことは、都市計画やまちづくりが如何にあるべきかを考える良いきっかけとなります。また、論文を執筆することは、世に対して自分の考えを発信することです。この度の震災は、私たちがこれまでに築いてきたことから、何ができるかを考えていく大きな転換点となると思います。怯むことなく日本と世界の将来を考えていきましょう。

## 阿部先生からの置き手紙

Message from Dr. Abe

4月から龍谷大学政策学部准教授としてご栄転される阿部大輔先生から研究室に向けたメッセージを頂きました。



阿部 大輔  
Daisuke Abe

都市デザインという何とも魅惑的な言葉の響きに誘われるように研究室に足を踏み入れてから、すでに11年が過ぎようとしています。学生として、そして教員として研究室で過ごした合計9年間は、さまざまな都市の発する抗えない魅力に翻弄されながら、無類の好奇心を携えて未知の土地を駆け巡り、忘れがたき出会いを重ねた濃密な時間でした。

先生方、学生のみなさんに感謝です。

来年度からは都市デザイン研究室関西支部として、人々が根を下ろし、魂の滋養を得ることのできる人間の環境ととしての「都市/まち」(シモーヌ・ヴェーユ的ですが)の実現に尽力していく所存です。これから、まちのあり方が厳しく問われざるを得ない時代に入ります。今後の都市を担っていくべき我々の世代は、様々な批判を恐れず、明確な都市像を議論し、示していく責務があります。みなさんと切磋琢磨しながら、歩んでいければと思います。



▲バルセロナの第二の家 (通称:魚屋)



▲最近の一押し:メデジン

## Information

新年度活動報告会 4月15日(金) 16:00~ 場所:未定

新M1や研究室への進学を考える方(内部、外部問わず)に向けて、研究室の活動を紹介します。

詳細は近日中に  
HP: <http://ud.t.u-tokyo.ac.jp>  
Twitter: UDL\_UT  
でご案内致します。  
お問い合わせは  
Tel 03-5841-6224  
(東京大学都市デザイン研究室)



▲昨年度の様子

### 4月の予定

- 4月3日 高山PJ現地報告会
- 4月12日 入学式@日本武道館
- 4月15日 2011年度研究室活動報告会+2011年度第1回研究会議  
新入生歓迎会

## プロジェクト報告



text\_yasukawa

3月13日(日)今年度の活動報告会を茶屋蔵で行いました。今年度の活動の3つの柱である、祭事・生業・茶屋蔵をパネルにまとめ展示すると共に、発表の時間帯を設けるという形式で行いました。ちょうどこの日は地元主催の町並みひな祭りの最終日で、多くの観光客が鞆を訪れており、骨董屋さんを併設していた茶屋蔵には多くの観光客が訪れ展示を眺める人の姿も見られました。発表の際には、地元の方々が、多くはないですが見に来て下さり、発表の後には鞆の祭事や生業についての各々の想いやまちづくりとの関係についての意見等を頂きました。

今年度の活動は来年度鞆雑誌にまとめる予定です。地元の方々に頂いた意見を大切に議論し更なる考察や追加調査を行い、深めていきたいと思えます。



▲雑駍りを背景に活動報告



▲パネル展示の様子

## 足助 ASUKE-project プロジェクト

text\_yabuki

3月23日(水)、豊田市足助支所にて本年度の足助プロジェクトの活動報告会を兼ねたワークショップを開催しました。東大からの報告の後、住民の皆さんと東大で回遊性、モビリティ、空き店舗活用の3つのグループに分かれ活発な議論がなされました。本年度の足助プロジェクトを振り返るとWS漬けの一年でしたが、社会実験をうちめぐりを経て足助の様々な主体を巻き込みながら来年度へ向けた良い流れが形成されつつあります。

今回は卒業間近のM2永野、山下の2人も駆けつけWSでは発表を行うなど、最後まで大活躍して頂きました。本当にお疲れ様でした!来月からは新M1が入って来ますので、しっかりプロジェクトに引き込みたいと思います。



▲活動報告会の様子

## 編集後記 都市デザイン研マガジン第6代編集長 阿部 正隆

1年間ご購入ありがとうございました。

今号をもって2010年度編集部体制での発行は最後となります。1年間ご購入頂きましてありがとうございました。今年度は誌面デザインを一新し、スタートを切りました。定期発行の死守はもちろんのこと、昨年度に引き続き編集部自ら取材を行い、主張のある記事づくりを目指しました。そうした中から3年ぶりに復活した社会科見学部企画として、フジテレビ、宮下公園をはじめとして少しばかりではありましたが、都市における現状に即した記事を提出出来たことは新たな一歩であったと思っています。年度初めにOB・OGの皆様にお仕事・活動を紹介していただく「日本全国OB・OGめぐり」、留学生によるエッセイ「留学生から見た日本の都市」をはじめとした連載企画、情報欄による外部への発信を充実させていくと目標を掲げましたが、これらに加えてTwitterやfacebookという新たなツールの登場により研究室活動の外部への発信は大きな転機を迎えています。しかしながら、都市デザイン研マガジンは今年度もあくまでもA4両面の誌面による情報提供にこだわってきました。今後は現在準備中のHPの一新とともにこれらの新ツールと如何に情報発信を担っていくのか。新体制の編集部が試行錯誤していくことでしょう。今後とも都市デザイン研マガジンを宜しくお願い申し上げます。